

独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院（横浜市港北区）

齊藤典充

横浜労災病院は横浜市北東医療圏の地域中核施設として、平成3年に開設された650床の病院で、主に急性期医療を担っております。新横浜駅から徒歩10分程の位置にあり、病院の隣には日産スタジアム、眼下には鶴見川と鳥山川が流れ、周囲は比較的開けた良い環境にあります。今年で開院24年目になりますが、初代の向井秀樹先生、2代目の金子聡先生の後を継いで、私齊藤が平成26年4月から部長をさせて頂いております。皮膚科は私の他に佐藤勘治副部長、森田美穂医師、武藤真由子医師、白木直子医師が在籍しており、5名体制で診療を行っております。

外来では平日は毎日初診を2名体制で行っており、基本は初診の方も予約制ですが、予約がなくても当日紹介状をお持ち頂ければ、拝見させて頂いております。生検は初診当日には難しい場合でも、できる限り早急に行わせて頂いております。

病棟では初代部長の向井先生の頃からアトピー性皮膚炎の入院治療には力を注いでおり、普段なかなかお目にかかれない様な重症の患者さんの入院治療も積極的に行っております。また重症度に関わらず外用剤の使用方法をしっかり経験して頂き、アトピー

性皮膚炎の治療の流れを理解していただくための教育入院も行っております。最近の時代の流れから、長期間の入院が難しい患者さんも多くいらっしゃいますが、最低限1週間の期間を頂ければかなり症状が改善され、その後の外来通院治療が大変楽になります。是非アトピー性皮膚炎の患者さんを御紹介頂きたくお願い申し上げます。

さらに帯状疱疹や蜂窩織炎など感染症の患者さんの入院も多く、急性期病院としての特徴を有しております。また手術にも力をいれておりまして、平成26年度は中央手術室での手術は年間120件、外来での小手術・生検などは年間300件ほどでした。手術につきましてもまだまだ枠に余裕がありますので、今後さらに症例を増やしていくつもりでおります。

他にもQスイッチルビーレーザーを用いた色素斑に対する治療や、CO₂レーザーを用いた小型の腫瘍や尋常性疣贅の除去につきましても、少しずつ症例が増えてきております。今後はこの領域のニーズも高まることかと思っておりますので、治療体制を充実させていきたいと思っております。

またここ1年で、私の専門領域である脱毛症の患者さんも数多くご紹介頂くようになりました。脱毛症に対しましては、まず診断をしっかりとつけた上で、病状に合った治療を行っております。特に円形脱毛症に対しましては、一般的な治療に加え、ステロイド局所注射、エキシマライトを含めた紫外線療法、症例をしっかりと選んだ上でのステロイドパルス療法も行っております。なお局所免疫療法につきましても、現時点で当院ではまだ施行できませんので、近隣のクリニックに施行をお願いしております。その他どのような皮膚科疾患にも対応させて頂きたいと思っております。

当院は皆様からの紹介状をお持ち頂かないと受診



後列左より：武藤真由子医師、白木直子医師
前列左より：佐藤勘治医師、筆者（齊藤）、森田美穂医師

しにくい病院ですが、平成26年度は数多くの貴重な症例を御紹介頂きまして、外来患者数、入院患者数とも増加しております。ご紹介頂いた貴重な患者さん達の症状が改善し、笑顔で先生方の元に戻って頂けるよう、また先生方からの症状の発症・増悪因子を解明して欲しいという御要望に、十分に答えられるような精査・治療を行っていきたく思っております。

当院では保土ヶ谷区で開業されている浅井俊弥先生に代表世話人になって頂き、地域の先生方との連携の会として、毎年6月と12月の第1木曜日に、横浜北部皮膚科臨床懇話会を開催しております。この会では当院に御紹介頂いた患者さんのなかから、ご

く一部ではありますが、患者さんの経過を報告させて頂くとともに、これまで北里大学名誉教授の西山茂夫先生に御講演を頂きまして、毎回50名程度の先生に御参加を頂いております。この会や地域医会の講演会などを通じまして、皆様と今後ますます顔の見える関係を築いていきたいと思っております。

皮膚科として5名の体制を維持していくことはなかなか容易なことではありませんが、地域の先生方や院内の様々な科との連携を深め、皮膚科としての強いアピールをしていく所存でおります。皆様の今後益々のご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

横浜保土ヶ谷中央病院(横浜市保土ヶ谷区)

守田亜希子

横浜保土ヶ谷中央病院(旧：横浜船員保険病院)は上星川駅からバスで5分(横浜駅からはバスで20分)の丘陵にあります。当院は昭和30年に開設されましたが、昭和49年に病院は全面改修され、260床の総合病院として生まれ変わりました。平成26年4月1日に独立行政法人「地域医療機能推進機構」(Japan Community Health care Organization (JCHO))：全国57の病院や介護老人保健施設からなるネットワークで、地域医療・地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズ

に応え、その生活を支えることを使命としております)が運営する、横浜保土ヶ谷中央病院として再出発致しました。平成27年4月からは、HCU病床が増設されました。

筆者は、横浜市立大学附属病院皮膚科の人事で、平成26年4月に当病院に赴任しました。杏林大学附属病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立市民病院、横浜市立大学附属市民総合医療センターを経て当病院に赴任しました。

平成26年4月より、大澤研子先生と常勤2名体制で診療を行っております。外来は平日および第1、3、5土曜日の午前中で、午後は生検、手術(水曜



後列左より：鈴木協子看護師、筆者(守田)、大澤研子医師、小林弘美看護師
前列左より：鈴木知佳看護師、樽谷雅子看護師



左より：クラーク三浦美穂さん、樽谷雅子看護師、丸山光雄医師

日は入院手術)、光線外来、自費診療、学童外来(水曜日、土曜日以外、15時半～16時半)、入院患者の往診、褥瘡回診(第1週の金曜日)を行っております。火曜日午前は大学から派遣していただいている服部紀子先生、木曜午前は丸山光雄先生(当科部長 歴任:昭和52年から平成18年3月)とともに外来診療を行っております。

診療内容は皮膚科全般に加え、手術の他、自費診療にも力を入れており、陥入爪に金属ワイヤー法(マチワイヤー法、VHO法)、サリチル酸マグコロールによるケミカルピーリング、レーザー脱毛(成人、女性患者様のみ)、老人性色素斑等に対するレーザー治療、クールビタミン・トリートメント(ビタミンA/Cのイオントフォーシス:ビタミンAとCの配合ジェルを顔の皮膚全体にコーティングし、その上から水分をたっぷり含んだ海藻由来の成分でパックし、微弱な電流を流すことにより皮膚全体にビタミンを導入していきます)を行っております。美容の自費診療も行っており、ハイドロキノロンやビタミンC誘導体の美容液、アゼライン酸などを当院売店にて販売し、ホームケアも指導しております。診療を支えてくれる看護師さんは8名(2名/日)、クラークさんは3名(1名/日)です。飛び入りでの緊急入院も多く忙しいですが、看護師さん、クラークさん、助手さんにとっても頑張ってください、非常

に恵まれた環境で診療を行っております。

外来は午前と午後をあわせて平均60～70名、入院は平均5～6名(昨年多い時は13名の患者様が入院されておりました)です。入院症例の主な疾患は帯状疱疹、蜂窩織炎、丹毒、中毒疹、薬疹、水疱症、難治性皮膚潰瘍(VAC療法は2014年度は3例(入院))、アトピー性皮膚炎(小児科病床がないため成人のみ)、皮膚悪性腫瘍です。2014年度の入院手術件数は皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)21例、全層植皮術10件、皮膚腫瘍摘出術は53例でした。外来での皮膚腫瘍摘出術および皮膚生検は252例でした。

横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立市民病院、横浜労災病院、聖隷横浜病院と連携し、また、当院の他科と密に連携しながら診療を行っております。当院は形成外科が非常勤のため、近隣病院とも密に連携しながら行っております。

病理組織は、横浜市立大学カンファランスで症例を提示し、毛利忍先生をはじめ、大学の先生方にもご教授いただいております。

皮膚科全般に対応し、地域に根差した診療を行っていきたくと考えております。今後ともどうぞご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

平成26年4月～ 週間日程表

	月	火	水	木	金	土(1,3,5週)
午前	新患 再来	新患 再来	新患 再来	新患 再来	新患 再来	新患 再来
午後	外来手術 光線(NB-UVB) レーザー治療 学童外来	外来手術 光線(NB-UVB) レーザー治療 学童外来	中央手術 光線(NB-UVB) ピーリング	外来手術 光線(NB-UVB) レーザー治療 学童外来	外来手術 光線(NB-UVB) レーザー治療 学童外来	

恩賜財団済生会横浜市南部病院 (横浜市港南区)

高江雄二郎

恩賜財団済生会は、明治44年に明治天皇より下賜された基金をもとに、生活困窮者の救済を目的として設立されました。41都道府県に101の病院・診療所、そして多くの児童や高齢者、障害者の福祉施設を有する国内最大の社会福祉法人です。神奈川県には、横浜市東部病院・神奈川県病院・若草病院・平塚病院そして横浜市南部病院の5病院があります。

横浜市南部病院は、横浜市と済生会が共同で建設し、済生会が運営する病院として昭和58年6月に開院しました。病床数は500床、標榜科は27科あり、訪問看護ステーション・地域ケアプラザを併設しています。昨年は開院30周年にあたり、記念パーティのほか、市民公開講座や看護フェスティバル、手術縫合体験や内視鏡トレーニング体験ができるブラックジャックセミナーなどが開催されました。

皮膚科は開院当初からあり、歴代部長は栗原誠一先生（現湘南皮膚科院長）、櫻岡浩一先生（現櫻岡医院院長）、木花光先生（現かものはし皮フ科院長）で、私で4代目になります。

現在、皮膚科は3名体制で診療にあたっています。平日午前中に一般外来を2診体制で行っており、光線外来も平日午前に枠を設け対応しています。午後は外来手術とパッチテスト、他科入院患者の診療を主に行っています。木曜日午後は手術室枠を持っており、全身麻酔手術にも対応しています。平成25年度は外来手術・手術室手術を合わせ596件を数えました。

また、平成25年から悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検を行うことが可能になり、より幅広い患者さんに対応できるようになっています。そして、乾癬の治療法の1つである生物学的製剤の認定施設

でもあり、乾癬の患者さんに光線療法から内服治療、生物学的製剤まで多くの治療選択肢を提案できる体制が整っています。

私、高江は平成25年4月に当院に赴任いたしました。神奈川県での勤務は、15年

以上前、研修医のころに平塚市民病院の木花いづみ先生のもとで3ヶ月勉強させていただいて以来です。短期間でしたが、毛孔性紅色秕糠疹、悪性黒色腫やガス壊疽など、今でも詳細に思い出せる症例を多数経験させていただきました。

こちらにきて約2年経ちました。皮膚科だけでなく、内科や整形外科など近隣の他科の先生がたからも多くご紹介いただいています。ご紹介いただく患者さんはご高齢の方が多いためか、日光角化症や基底細胞癌、悪性黒色腫などの悪性腫瘍や、糖尿病や腎不全など内科疾患に伴う症状や薬疹まで様々であり、日々勉強させていただいています。

近隣の皮膚科の先生方との連携を深め、地域の中核病院の皮膚科として貢献できるようがんばりますので、どうぞよろしく願いいたします。



後列左より：熊谷宣子、泉 映里
前列：筆者（高江）